

変動する汽水環境下における生物群集の応答—宍道湖と大橋川の底生生物を例に

倉田健悟（島根大学生物資源科学部）

沿岸の河口域や汽水湖では環境の時空間的変動が大きく、変動する環境要因に適応した生物群集が見られる。日本を代表する汽水域である宍道湖とその接続河川である大橋川は、低塩分（oligohaline）から中塩分（mesohaline）の範囲で変動し、ヤマトシジミとホトトギスガイが底生生物の優占種である。本発表では2005年から継続している長期モニタリングによる両種の個体群動態を中心に、漁業や他の生物種の変化のトピックを交えて紹介する。

